

(別紙)

成果の説明書

富澤 一弘	経済学部 経済学科 教授 博士
<p>1 重要事項</p> <p>(1) 科学研究費補助金（基盤研究C 平成 23 - 27 年度「近代日仏間生糸・絹織物貿易史の研究ーリヨン絹織物業組合の原史料を中心にー」）によるフランス国立図書館・フランスワ・ミッテラン館（パリ市）の収蔵史料の検討</p> <p>報告者は、平成 23 - 25 年度にわたる 3 カ年度、フランス共和国パリ市に赴き、19 - 20 世紀前半の日仏生糸・絹織物貿易に関する仏文史料・原文書等を、2 万枚余、複写して帰国している。これらの史料は、わが国にはコレクションとしては、全く存在しておらずー国会図書館にも、他の有名な史料所蔵機関にもみられないーフランス国内の蚕糸業・絹織物業関連の業界紙・誌等であり、フランス側から当該期のシルク貿易史を研究する際の、知られざる最重要史料である。</p> <p>平成 25 年度は、これらのフランスから持ち帰った史料の整理・翻刻を、一貫して行ってきた。史料点数は実に龐大であるが、そのほとんどは日本国内未紹介の重要史料であり、公表がなされれば、国内学界にかなり大きな貢献ができるものと思量する次第である。それ故、報告者は、今後とも、本作業を最重点の課題として継続していくつもりであり、さらに平成 28 年度の史料集刊行、平成 29 年度の論文集刊行を目指して、孜々として努めていきたい、と考えている。</p> <p>(2) 国内史料所蔵機関における史料調査</p> <p>(1) の研究・調査の補充調査として、個人研究費、および平成 25 年度「高崎経済大学特別研究奨励金」を使用して、首都圏、ならびに東海 - 西日本エリアにおいて、シルク産業に関する文献蒐集を行っている。これらは、明治 - 昭和前期のシルク産業に関する史料が中心であり、他に紡績、金融に関する文献等も含まれている。平成 26 年度以降も、これら補充調査を、エリアを拡大しつつ、継続していく予定である。</p> <p>(3) 博士後期課程院生・佐藤雄太氏との共同研究</p> <p>(1)、(2) の研究とは別個に、報告者の日本経済史研究室に在籍していた博士課程の院生・佐藤雄太氏と、日本中世政治史に関する専門的な研究を数年間継続しており、過去、平成 23 - 24 年度に、以下の論文を公表してきた(全て査読つき、合計 A4 で 114 頁)。これら成果をふまえて、佐藤雄太氏は、平成 25 年 6 月、学位請求論文「室町・戦国期における制札の研究」を本学大学院に提出、同年 9 月、博士（経済学）の学位取得を果たしている。報告者は、この論文の主査としても、同氏の研究を指導している。</p> <ol style="list-style-type: none">1 富澤一弘・佐藤雄太「今川氏の制札の研究」（『高崎経済大学論集』53-4、高崎経済大学経済学会、平成 23 年 4 月、15-28 頁[14 頁]）。2 富澤一弘・佐藤雄太「織田氏の制札の研究ー信長発給文書を中心にー」（『高崎経済大学論集』54-1、高崎経済大学経済学会、平成 23 年 6 月、15-27 頁（[13 頁]））。3 富澤一弘・佐藤雄太「『加澤記』からみた戦国時代沼田地方の政治情勢」（『高崎経済大学論集』54-2、高崎経済大学経済学会、平成 23 年 9 月、1-16 頁[16 頁]）。4 富澤一弘・佐藤雄太「『加澤記』からみた真田氏の自立ー外交政策・家臣団統制を中心にー」（『高崎経済大学論集』54-3、高崎経済大学経済学会、平成 24 年 2 月、31-47 頁[18 頁]）。5 富澤一弘・佐藤雄太「今川氏の制札の研究ー南北朝期を中心にー」（『高崎経済大学論集』55-1、高崎経済大学経済学会、平成 24 年 6 月、1-14 頁[14 頁]）。	

- 6 富澤一弘・佐藤雄太「足利氏の制札の研究―尊氏、直義文書を中心に―」
(『高崎経済大学論集』55-2、高崎経済大学経済学会、平成24年12月、55-68頁[14頁])。
- 7 富澤一弘・佐藤雄太「毛利氏の制札の研究」(『高崎経済大学論集』55-3、高崎経済大学経済学会、平成25年2月、93-105頁[13頁])。
- 8 富澤一弘・佐藤雄太「大友氏の制札の研究」(『高崎経済大学論集』55-4、高崎経済大学経済学会、平成25年3月、1-14頁[14頁])。

2 その他の事項

- (1) 平成20-21年度に続いて、平成24-25年度、高崎経済大学経済学会の会長を務めている。任期は、都合4年度となる。『高崎経済大学論集』の年度4回の刊行を主軸に、会務に従事している。
- (2) 平成25年度、以下の研究報告を行っている。
 - ①「仏文史料にみる万国博覧会出品の日本生糸 - 明治初期を中心に -」(平成25年10月6日、群馬歴史研究会、群馬県桐生市交流館)
 - ②「仏文史料にみる日本産絹布等の評判 - 明治期を中心に -」(平成26年3月2日、群馬歴史研究会、群馬県桐生市交流館)